



記者会見に臨む徐永明立法委員

徐永明立法委員、 台湾政治と時代力量を語る

徐永明立法委員は二〇一六年一月の立法委員選挙で、新しく誕生した政党、時代力量の候補者として全国不分区（比例代表制の全国区）から立候補し、当選した。元は東呉大学で教える政治学者である。時代力量の結党を先導したメンバーよりも上の世代に属する。

佐藤幸人 時代力量の結党の理由は何ですか。

徐永明 わたしはやや遅れて結党の準備に加わりました。結党を主導したのは林昶佐と林峯正です。

多くの人から同じことをきかれました。台湾本土派あるいは独立派の立場に立つならば、民進党でもよいだろうと。時代力量の結党は、ひまわり運動と関係があります。この運動をリードした若者たちは「天然独」と呼ばれ、これまでの世代と異なるといわれています。彼らは国民党や大中国意識への反発から生まれたわけではありません。成長の過程で強い台湾アイデンティティを身につけるようになりました。

時代力量の結党には、現在の執行主席の黄国昌や林飛帆、陳為廷といったひまわり運動のリーダーたちが集まりました。時代力量は前の世代と比べてより独立志向の、より若い世代を代表しています。それに対して、民進党は成熟した政党であり、規模も大きいです。**佐藤** 二〇一六年一月の選挙では、

時代力量は五つの議席を獲得しました。この結果をどうみますか。

徐 選挙の時、若い世代やメディアが時代力量をとっても重視していると感じました。選挙前の世論調査では、一時、支持率が一五%に達しました。民進党が民進党に票を集めるように呼びかけたため、わたしたちの全国区での得票数は一〇〇万票には届きませんでした。ここから時代力量と民進党の支持者が重なっていることがわかります。

わたしたちがいかに社会的な基礎を確立し、政党のイメージを明確にし、民進党と差別化するかが重要です。時代力量の政策には民進党と違いがあります。たとえば労働政策では、わたしたちは週休二日・休日出勤原則なしを主張しています。司法院長の人選でも、蔡英文政権に対して疑問を呈しました。

時代力量の主な支持者は若く、教育水準が高く、都市部に在住している人たちです。六つの直轄市では一五%、場所によって二〇%の支持を得ています。世論調査の支持率が実際の選挙で票になるかどうかは、二〇一八年の地方選挙で試されることになります。県議

会議員や市議会議員の選挙は、ひとつの選挙区から五〜六人を選びます。そこで候補者を立て、世論調査に現れた一五%の票を獲得したいと考えています。

佐藤 台湾社会が直面する最も重要な問題は何だと思えますか。

徐 一月一六日の総統選挙前でしたら、アイデンティティの分裂、つまり台湾は台湾人アイデンティティと中国人アイデンティティのどちらを選ばべきかという問題だと考えたでしょう。それは中国との関係において、統一に向かうべきか、独立に向かうべきかという問題でもあります。しかしながら、選挙後、アイデンティティ問題は小さくなり、あまり重要ではなくなりました。なぜならば、どこ出身にかかわらずなく、また国民党と民進党のどちらを支持しているにかかわらずなく、大部分の人は自らを台湾人と考えるようになったからです。今回の選挙の結果は、馬英九政権の過去八年の中国との関係および対中国政策の否定でした。

わたしは台湾社会にとってこれから重要となるのは世代問題だと思います。これは東アジアの社会の多くが直面している問題です。

若い世代は不平等を感じています。給与は少なく、階層的な流動の機会が限られています。階級の問題とも関連しています。台湾においても、過去二〇年、経済はある程度成長したものの、給与は増えませんでした。このことから中産階級あるいは給与所得階級が経済発展の果実を受け取っていないことは明らかです。

民進党は移行期正義を掲げて、国民党の不当な資産の処理を進めようとしています。これはむしろ容易だと思えます。社会に一定のコンセンサスがあるからです。

では、格差の拡大にはどのように対処したらよいのか。これについては見方が分かれています。たとえば年金改革や労働者の休暇や賃金について、立法院では議論が行われています。

佐藤 当面、どのように対処しますか。

徐 時代力量は、たとえば週休二日の導入を堅持します。週休二日の意義は民間の労働者の待遇を公務員と同等にすることです。時代力量は独自の法案を提出しました。これは二日のうち一日は所定の休日手当によって出勤を可能とする与党案とは異なっています。

年金については、台湾では一般

の労働者と軍人・公務員・教員の間に大きな差があります。時代力量の改革案は、あらゆる人が基礎年金を受け取れるようにし、その上に職業間で異なる二階部分、さらにその上に個人年金を加えるというものです。職業間の格差だけではなく、これまでの年金改革の時期によっても世代間の格差が非常に大きくなっています。たとえばある年代までの軍人・公務員・教員は、年金を預金しておくと同率の優遇利率が適用されます。現在の通常の利率はほとんどゼロです。そのギャップは政府が補填しています。改革をすれば多くの人の権益が損なわれます。そのため、政治的な衝突が生じます。

佐藤 時代力量の方向性は企業界と衝突することになりそうです。

徐 そうです。民進党にもわたしたちと近い立場の人がいますが、与党になってからは企業への圧力をより強く受けています。経済を発展させなければならぬという圧力が民進党にのしかかっています。既に述べましたように、経済成長の果実は資本家の手にあります。それをどう移すかです。馬政権は企業に昇給を促しましたが、効果

はみられませんでした。時代力量は休暇の増加によって、一面では労働時間を短縮するとともに、もう一面では残業手当の増加によって労働者の所得の増加を図ろうと考えています。

長期的には最低賃金法の成立を目指します。現在の台湾には政府が設定する基本賃金はありません。しかし、欧米にならって最低賃金を導入し、賃金の下限を規定するようにしたいと考えています。このように、時代力量は労働者の側に立っています。

また、現代社会では労働者の範囲は広がっています。たとえば、時代力量は病院勤務の医師に労働基準法を適用するという政策を提案しています。若い勤務医の労働時間はとても長く、過労の問題があります。彼らはベテランの、地位の高い医師に搾取されています。彼らの所得水準は高いかもしれませんが、待遇はひどいものです。

佐藤 介護についてはどのように考えていますか。

徐 介護に関する政党間の違いは財源です。時代力量は相続税・贈与税を考えています。馬政権では相続税・贈与税の減税をしました。免税点もかなり高いです。それに

よって資金は台湾に還流しましたが、投資には向かわず、不動産市場に投入され、不動産価格が高騰しました。政府は営業税（付加価値税）の税率引き上げを考えています。わたしたちは現在の不況下では営業税の増税は難しいと考えています。

佐藤 介護の財源は税方式を考えているわけですね。

徐 私たちの党内にも保険方式を考えている人もいます。全国区から立候補した後、今は台中市の副市長になっている林依瑩は、健康保険に付加するという考え方です。しかし、わたしたちは基本的には税方式を考えています。実施してからまた検討を加えればよいと思います。

佐藤 新政権発足後、台湾と中国の関係は冷え込んでいます。これに対してどのような見方をしていますか。

徐 時代力量の立場からすると、蔡政権には国際社会において台湾の名義で活動して欲しいと思います。当然ですが、北京には台湾内部の変化という現実を理解してもらいたいです。過去八年、中国は馬英九を支持しましたが、国民党は政権を維持できませんでした。

しかも、予測可能な未来において、国民党に第二の馬英九が現れることはなさそうです。中国が民進党あるいは独立寄りの政権と向き合うことになれば、必ず戦略や発想を改める必要があります。北京も心配しているようにみえます。ですから、最近、人をおくつてきて、台北市と交流しています。

蔡政権の立場は、台湾と中国の関係の現状維持からスタートしています。これは短期的には変わらないと思います。現在の注目すべき点は、北京が彼女の現状維持をどのように解釈するかです。台湾の対中国政策に大きな影響力を及ぼすのはアメリカです。アメリカが蔡政権に圧力をかけないかぎり、蔡政権は一九九二年コンセンサスに言及することはないでしょう。これも中国が理解する必要がある、国際社会の現実のひとつです。

佐藤 台湾が国際社会での活動を広げようとする場合、ひとつの方向はTPPへの加盟やFTAの締結です。しかし、ひまわり運動は新自由主義への反感もみられました。徐委員はFTAやTPPに對して、どのような立場でしょうか。

徐 ひまわり運動には三つの次元

がありました。ひとつは立法院の決定過程におけるブラックボックスへの批判です。これが最大のコンセンサスになりました。それから中国への過度の接近への反発と、反自由主義、反グローバリゼーションです。

時代力量の立場は、台湾の発展には国際社会の支持が必要であり、とりわけ中国との関係が現状のようになっていることから、TPPへの加盟は必須だと考えています。ただし、問題はその中身です。

わたしたちは台湾がTPPに加盟する必要があるからといって、何でも譲歩してよいとは考えません。台湾はTPPに加盟する必要がありますが、TPPにとっても台湾は必要です。蔡総統は経済交渉の専門家を自負しています。新政権は留保すべきは留保し、台湾の立場を保持しながらTPPに加盟すべきです。

しかし、方向性としては、TPPの加盟に反対しません。時代力量の支持者やメンバーにも加盟に反対している人はいますが、社会は中国との経済的關係が緊密になりすぎていることを心配している人の方がはるかに多いのです。国際社会とのつながりによって、バ

ランスをとることが今後はより重要です。

佐藤 時代力量は今後どのように発展を図りますか。

徐 立法院はわたしたちにとって最も重要な舞台です。わたしたち五人の立法委員の立場やパフォーマンスがとても重要です。それは政党に対する支持率に反映されるからです。わたしたちは次の選挙では、全国区での得票率において一〇%を突破したいと思っています。そうすれば、選挙区の議席と合わせて一〇を超えられます。

一月の選挙では民進党の呼びかけによって、一部の支持者が民進党に回帰しました。わたしたちを支持する特定の層を明確にすることが重要です。そのため、政策では与党と差別化しなければなりません。

当面、二〇一八年の地方選挙では、既に述べたように、各選挙区で候補者を立てます。わたしたちの候補者は若者に重点を置きます。既存の政党の地方議会の議員は、年齢構成が高くなっています。候補者も保守的に選び、若者を抜擢はしないでしょう。そこで、わたしたちが若者たちに政治に参加する途を提供するのです。

市長や県長の候補者を立てることも考慮します。これまでの台湾の小規模政党の問題は、地方の首長がいなかったことです。それが発展のボトルネックとなり、消えていきました。台湾の政治構造において小規模政党の生存が可能かどうかは、地方選挙での突破が重要です。

佐藤 台北市の柯文哲市長とは協力関係にありますよね。

徐 立法委員選挙では柯市長から多大な支援を受けました。将来、協力することもあるでしょう。柯市長は現在、再選を目指して努力しています。特に民進党の支持を取り付けようとしています。ただし、核心は柯市長の施政の良し悪しです。

(二〇一六年八月二十六日、立法院の徐委員のオフィスにて。
聞き手・抄訳 佐藤幸人／アジア
経済研究所 新領域研究センタ
ー)